

平和への誓い新たに！

令和5年度 矢沢地区 戦没者追悼・平和祈念式

戦後78年を迎えた終戦記念日の8月15日、花巻市社会福祉協議会矢沢支部（佐藤和見支部長）では、矢沢振興センター講堂において矢沢地区戦没者追悼・平和祈念式を開催しました。

当日は、ご来賓7名、遺族会28名等関係者64名が出席し厳かに式典が執り行われました。国歌斉唱、黙祷、主催者式辞に続いて、川村伸浩県議会議員、大和一信花巻市遺族連合会会長、大木昭郎矢沢遺族会会長の追悼の言葉がありました。矢沢中学校を代表して矢沢中学校3年の高橋蒼生(あおい)君は、平和への願いを述べました。高橋君は歴史の勉強を通じて知った戦争の怖さ、更にウクライナ戦争の悲惨さを目の当たりにしての平和の尊さを強調しました。最後に出席者は献花を行い戦没者への追悼と平和への祈りを捧げました。



式辞の佐藤和見支部長



大木昭郎矢沢遺族会会長



矢沢中3年高橋蒼生君



矢沢地区文化祭

矢沢地区文化祭実行委員会（多田功実行委員長）では、8月24日に役員会を開催し今年度も恒例の文化祭を下記の通り開催することを確認しました。矢沢地区の皆さんには文化祭の盛会に向け引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

11月11日(土)

《作品展示》9:00~16:00 講堂

11月12日(日)

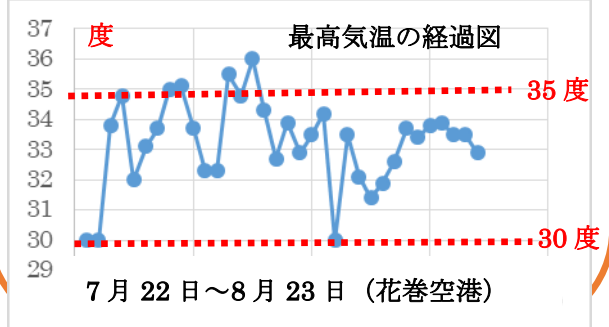
《ステージ発表》10:00~12:00 大広間

《作品展示》9:00~15:00 講堂



○ 記録的な暑い夏にうんざりの毎日！

岩手県を含む東北北部の今年の梅雨明けは平年より6日早い7月22日と発表されました。花巻空港の観測では、梅雨明けと同時に30度以上の真夏日が続き、8月24日現在34日間連続と記録が継続中です。その間降水のあった日は11日間で、計169mmの降水を記録していますが、不安定性降水が多く、場所によっては違いがあると思われます。様々な分野で影響が考えられていますが、いずれの間、超高温・降水量平年以上で経過。



令和5年度市民体育祭開催

矢沢体協 各競技大会に参加・奮闘！

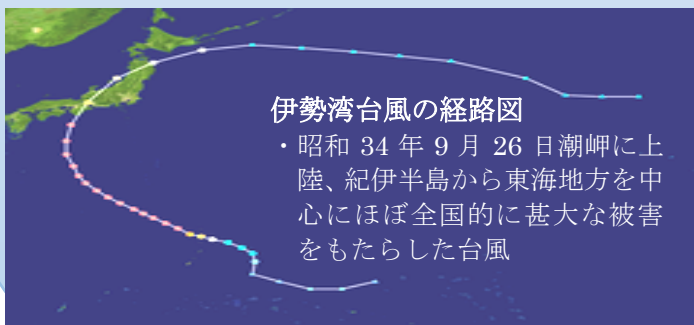


・種目 ・開催日 ・参加チーム数等

- 野球 7月23日・30日、8月6日 10チーム参加
- 男子バレー 7月30日 7チーム参加
- 女子バレー 7月30日 6チーム参加 第3位
- ソフトボール 8月6日 8チーム参加 第3位
- 卓球 8月6日 4チーム参加

☂ 9月1日は「防災の日」 ☂

「防災の日」は、1960年（昭和35年）に制定されました。制定となる決め手となったのは、前年の昭和34年9月26日に紀伊半島に上陸した台風第15号による死者行方不明者5,000人を超える明治以降の日本災害史上最大の台風被害（被害の主な要因は高潮）でした。この台風は「伊勢湾台風」と呼ばれ上陸時の中心気圧は929hPaと昭和36年の第二室戸台風の925hPaに次ぐ気圧の低い台風でした。この台風の甚大な被害を受けて昭和36年に「災害対策基本法」が制定されています。また、現在運用されています特別警報（平成25年運用開始）は伊勢湾台風クラスを想定しています。「防災の日」の9月1日は言うまでもなく大正12年9月1日の「関東大震災」の発生した日であり、立春から数えて二百十日で、台風接近や秋雨前線による大雨被害が多い事も「防災の日」に制定された理由と言われています。いずれにしても最近の異常気象は温暖化に伴い、いつでも大きな災害が発生してもおかしくない状況にあり、日頃からの対応が大事になっております。



♥ やさわこども広場9月は13日&27日!

8月は夏休みで休んでおりました「やさわこども広場」は9月から再開します。多くの未就学児の子どもさんとお母さんのご来場をスタッフ一同お待ちしております!

と き：9月13日(水) & 27日(水) 10時～
 ところ：矢沢振興センター 大広間



基本、毎月第二・第四水曜日です!

- ・おもちゃ遊び・読み聞かせ・ふれあい遊び
- ・子育て相談・おやつもありますよ!

✿ 移動図書館（ぎんが号）運行日程 ✿

9/14(木)	団地会館	13:40~14:00
9/14(木)	福祉センター	14:15~14:45
9/20(水)	高木観音	09:20~09:50
9/20(水)	振興センター	10:05~10:35
9/20(水)	やさわこども園	10:50~11:20

【事務局員のつぶやき】（土壌雨量指数についてのお話!）

東北北部では今年も7月中頃に梅雨末期の大雨に見舞われました。その時に発表された大雨警報や土砂災害警戒情報の基準になる土壌雨量指数についてお話します。平成11年6月29日の梅雨前線等の影響による記録的な大雨では、広島市の新興住宅地で土砂崩れが発生し32名もの尊い命が一瞬にして奪われました。これは都市型土砂災害と呼ばれ、その後の土砂災害防止法の制定とつながり、同時に土壌雨量指数という概念も導入されました。つまり降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標として、実況と予測に基づいて、大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報等の判断基準として土壌雨量指数を用いています。かつては大雨注意報や大雨警報の発表基準は降水量の実況や予測を目安に発表していましたが、平成20年5月28日から土の中に貯まっている水の量を考慮した土壌雨量指数を新たに基準として用いることにより土砂災害の対応良く大雨注意報・警報を発表することが出来るようになりました。雨が降ると雨水は地表面を流れて、川に流れ込んだり、地中にしみ込んだりします。土壌雨量指数の計算

には図のように降った雨が土壌中を通して流れ出る様子を孔の開いたタンクを用いてモデル化した「タンクモデル」を使用しています。土壌雨量指数は、図のように3つのタンクから流失した残り、つまり水分量（貯留量）が合計として計算され、これが土壌中の水分量に相当しています。なお、浸水対応大雨警報は、表面雨量指数基準を活用。

